

# 筑波大学特別支援教育研究紀要第2巻刊行にあたって

筑波大学特別支援教育研究センター長

前川 久男

特別支援教育研究センターが筑波大学に設置され既に3年を経過しました。この間、特殊教育から特別支援教育への移行という課題にセンターも様々な活動を通じて取り組み、これからの特別支援教育の実質を支える理論と実践の基盤となるものを作り出す努力を附属特別支援教育5校の先生方とともに取り組んできました。その成果を全国に発信する一つの手段として昨年より研究紀要の形式をとってまとめ発信し始めました。今年はその第2巻という事になります。センターの活動で最も我々自身が期待している事は、多様な障害のある子ども達の教育、発達支援、生活支援を視覚障害、聴覚障害、運動障害、知的障害、自閉症などの教育の専門家が相互に連携し、一人一人の子どもの状態を最大限に理解し合い、支援の方法を生み出し、検証して行く連携研究を生み出して行く事です。そうした研究が今後発展していく基盤はありますので期待していただきたいと考えています。

また理論的研究の一つとして、DN-CASの理論的基礎となったLuriaの神経心理学の哲学的背景を掲載しましたが、これはプランニングという認知機能が人間の認知機能の最も人間らしい側面である事、またそうしたものを育むためには何が必要かということ気付かせてくれものだと考え掲載したものです。是非お読みになり、今後の特別支援教育との関連を考えてくだされば幸いです。